

# 産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会製品安全小委員会

## 及び 消費経済審議会製品安全部会合同会議

### 議事要旨

日時：令和3年3月1日（火曜日）15時00分～17時00分

場所：経済産業省 Skype 会議

#### 出席委員

産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会 製品安全小委員会

三上委員 井上委員 大崎委員 神山委員 川村委員 齊藤委員 坂本委員 佐藤委員  
水流委員 東嶋委員 野々内委員 藤野委員 宗林委員 安好委員 遊間委員

消費経済審議会製品安全部会

升田委員、青柳委員、伊藤委員、河津委員、関委員、田辺委員、新倉委員、

両審議会兼任

倉貫委員、佐々木委員、唯根委員

#### 議題

- (1) 2020年の製品安全関連法の執行状況等
- (2) 2020年の製品事故の発生状況及び課題
- (3) 製品事故の概況／社会構造の変化・技術革新を踏まえた製品安全のあり方
- (4) 製品安全文化の醸成
- (5) 行政手続きのオンライン化等
- (6) 規制の見直し事項

#### 議事概要

議題に沿って各資料に基づき、議題1～議題6について、経済産業省製品安全課の原課長より説明の上、質疑応答が行われた。委員等からの主な発言は以下のとおり。

## 製品事故の概況／社会構造の変化・技術革新を踏まえた製品安全のあり方

- 製品安全関係法令では、製造事業者、輸入事業者、販売事業者を規制しているが、インターネットモール運営事業者の役割が重要となっており、必要に応じて、規制対象にすることも検討すべきではないか。
- PSE マークがついていながら法令上の技術基準に適合していないものがあつたというのは問題。リチウムイオン蓄電池を搭載する製品は増えていることから、重要な問題だという意識をもって取り組んでいただきたい。
- 海外に拠点を置き、日本の消費者向けに、日本語のホームページを通じて違法な製品を販売している事業者のホームページサイトについて、海外のレジストラに依頼をして日本の消費者が閲覧できなくする取り組みは重要。消費者側からも停止されたサイトの情報を知ることができるように工夫してほしい。

## 製品安全文化の醸成

- 製品安全対策優良企業表彰について、消費者へ広く認知されることが何より事業者にとってのインセンティブになる。素晴らしい企業の取組の横展開、社会への広がりが重要。
- 製品評価技術基盤機構（NITE）が定期的に様々な製品事故などについて注意喚起を行っていることを初めて知ったが、一般の人はなかなか目にしないと思う。実際に消費者に届く情報発信が重要。
- 消費者教育への取り組みは重要。消費者庁のポータルサイトの活用は、NITE の提供する映像情報など適切なコンテンツが提供されている。今後も関係省庁等とも連携しつつ、継続的に充実していくことが必要。
- SG 基準でも、高齢者製品は重要な分野で注視している。技術が進歩しているので基準は常に見直しをしつつ、使用者側に向けて取扱説明書の充実なども考える必要。
- 電気消毒器の例示基準の見直しの際は、広く周知をお願いしたい

## お問合せ先

商務情報政策局 産業保安グループ 製品安全課

電話：03-3501-1707

F a x：03-3501-6201